



R4年度アートの森プロジェクト

森のなや?なや美術館 III

—木からハジマル、木からハジメル—



2022年6月14日(火)～9月11日(日) 本館2F 常設展示室2

美術館では令和2年度より、森林環境税を活用した「アートの森プロジェクト事業」をスタートさせました。第三弾となる今年度は「木」を素材にした作品たちをご紹介します。展示室に登場するのは、宇和島市出身の彫刻家・小清水 すすむ(たくはきすすむ)、田窪恭治(今治市)、近藤英樹(久万高原町)、畦地梅太郎(宇和島市)、木和村創爾郎(松山市)、土居明生(久万高原町)ら、郷土の作家たちによる作品群のほか、木で「造る」ということの意味を問いかける李禹煥(リウ・ウァン)の作品を展示します。また今期の関連プログラムの講師を務める、彫刻家・増本達彦(ますもとたつひこ)の作品も紹介いたします。

更になぞなぞ美術館では、恒例の、①みなさんが展示室に来る前、と、②美術館に来た時、に作品をじっくりみるための「?(問い)」を用意しています。①の「?」のヒントは次のとおりです。言葉だけで作品をイメージしていきます。想像できたら、ぜひ!展示室に見に来てください。あなたの観察力が鍛えられますよ!そして、②の「?」行方は…みる人、みんなに委ねられます。

夏休み、家族や友達と一緒に、木から誕生したアートの森の中を探検してみませんか。(鈴木 有紀)

畦地梅太郎《山小屋の老人》1953(昭和28)年

ヒント

暗闇の中におじいさんが一人立っています。おヒゲがみえます。おじいさんの目は、真っ直ぐあなたの目を見つめているようです。一見、恐ろしいおじいさんです。しかし、口元をみると笑っているようにもみえます。何かあなたに伝えたいことがあるのでしょうか。おじいさんは身軽そうな恰好をしています。おじいさんの右の手には何か握られています。左の手は隠れていてみえません。さて、どんなおじいさんだと思いますか? どうぞ「おじいさん」に会いに展示室に来てみてください。

コレクション紹介

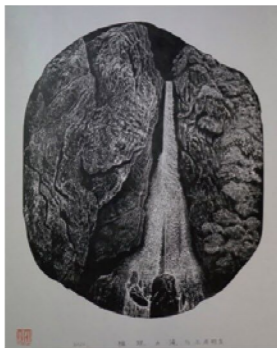
いらっしゃい!「令和3年度新収蔵品展」

令和3年度も新しいコレクション10点が当館に仲間入りしました。今回は、日本画、油彩画、木版画と技法は様々ですが、共通点がひとつ。制作した作家4名は、全員愛媛県の生まれ、浜田泰介(1932-)は宇和島市、好永紫芳(1898-1992)、二神常貞(1924-1953)は松山市、土居明生(1930-)は久万高原町の出身です。

今回のお披露目とおして、愛媛の文化の豊かさの一端を感じていただければ幸いです。また今後も、これまでのコレクションと新収蔵品を線や面でつなげながら、ご紹介してまいります。(喜安 嶺)



二神常貞《風景》



土居明生《権理の滝》2020(令和3)年、第62回日本版画会 文部科学大臣賞受賞

コレクション紹介

コレクション展I

ハイライト特集「畦地さん、石鎚さん」

宇和島市三間町出身の版画家、畦地梅太郎は、山を主題に数々の作品を生み出した「山の版画家」として知られています。また今回は、会期の途中に「山の日」(8月11日)を含むことから、畦地にとって重要な山のひとつである「石鎚山」を主題としたコレクションを一堂に展示します。

初めての版画集「伊予風景」に収められた《石鎚霊峰》から、最後の版画とされる愛媛県民文化会館サブホールの緞帳原画《石鎚山》まで、畦地の版画への思いがその時々の石鎚山に表されています。また、こうした畦地作品とおして石鎚山の魅力を再発見していただきたいと思えます。会期中には、石鎚山の美しい映像とVR(バーチャルリアリティ)体験が、一緒に楽しめる「VR情報発信ボックス」も会場内に設置いたしますのであわせてお楽しみください。(喜安 嶺)



畦地梅太郎《石鎚山》1985(昭和60)年

夏休みイベント

恒例となりました夏休みイベントを下記の要領で開催します。

8月11日(木・祝)、12日(金)

①11:00～②13:30～③14:30～

※所要時間45分程度

◆場所:アトリエ2

◆対象:各3組(事前予約) ※一人でも参加可能です。

11日(木・祝)

モノタイプ版画

材料費:150円

紙にアクリル絵の具で描いたものを紙に刷ります。

12日(金)

藍染エコバッグ

材料費:A4版200円・A3版300円

布バッグを絞り、インド藍で染めてオリジナルエコバッグを作ります。

Canforo No. 64

カンフォロとは? イタリア語で「くすのき」を意味します。愛媛県美術館の庭に立つ3本の大きなくすのきにちなんでつけられました。

愛媛県美術館ニュースNo.64 2022
発行日=令和4年7月10日
編集・発行=愛媛県美術館
※表記のないものすべて当館所蔵作品

であうつながるひろがる—アートの宝宝箱—

愛媛県美術館

https://www.ehime-art.jp/
〒790-0007 愛媛県松山市堀之内
tel.089-932-0010 fax.089-932-0511



特別展

みる冒険 ゆらぐ感覚

2022年8月6日(土)～9月30日(金)

本館2F 常設展示室3

愛媛県美術館では、令和2年度より美術鑑賞を視覚だけに限らず触覚や聴覚、対話などで作品にアプローチすることを試みています。意識していなかった感覚の領域にふれ、鑑賞者のひとりひとりが「みること」を再考する展覧会やプログラムを開催することで、多様な美術を通して美術の楽しみ方が広がることを願っています。

今回は、光島貴之、八木良太の2名の作家の作品を軸に当館の所蔵品を交えて、普段気に留めることもなく過ぎていく視覚世界に改めて向き合い、あらゆる感覚を用いて「みること」を思考する展覧会となります。

光島貴之は、視覚以外の感覚で捉えた日常を、触る形や記憶の色で表現します。布や金属など多様な素材を用いた「触角カラージュ」を発展させ、近年、「釘」を加え、釘の打ち込みで高低差をつけながらラインや面を構成する作品を発表しています。本展では松山城、道後、三津など松山市内を取材し、その印象を組み合わせ、手だけでなく足裏でも鑑賞する作品が披露されます。



八木良太《Rainy day Music》2005-2022年 作家蔵

八木良太は、身近な既成品を用い、その物質の特性を活かして作品を構成し、視覚や聴覚について知覚の新たな領域に切り込みます。赤ちゃんや子どもなど自分とは異なる視覚認識や目線を提示する作品では、自分の目に映る現象が絶対と信じていたものが覆され、他者の感覚による新たな気づきや発見があります。

本展を通して、視覚以外の感覚を用いて目には見えないものに想像を巡らせたり、視覚の特性による意外な見え方、異なる見え方を認識したり、日常を捉える感覚がゆらぐ時をお楽しみいただければと思います。(石崎 三佳子)

学芸員
ミニコラム

「カンフォロ(楠)と美術館」

堀之内公園には、武家屋敷が建っていた江戸時代から堀の堤や各屋敷の敷地内に植栽がありました。当館の大きな楠も堀之内の長い歴史を見守り続けています。1998(平成10)年、前身の県立美術館(現・南館)を引き継ぎ新しく誕生した当館は、三之丸の史跡を配慮し、楠の大木を生かして設計されました。中には、木の形に合わせて外壁が窪んでいる場所もあるほど。また、中庭の3本の楠はシンボルツリーとして堂々とした姿を誇っています。開館以来発行してきた本紙の名称「カンフォロ」も楠のイタリア語です。

中庭は、文字通りの「中庭」として旧館と本館とを一体化する役割も担っています。楠とともに歩んできた当館も来年で25周年を迎えます。(杉山はるか)



つぶやき



ただいま!3年ぶりに美術館に戻ってまいりました。コロナ禍で暮らしの変化を痛感する日々ですが、久しぶりの美術館で多くの来館者の姿をみて、館が変わらず皆さまの生活とともにあることに感謝しました。これからも美術館ができること、探してまいります!(喜安 嶺)

つぶやき



この4月から愛媛県美術館に参りました。展示の準備や企画、アトリエでの活動や広報業務など様々なことに携わらせていただきます。専門は「メディア芸術」で、映像、マンガ、写真などに興味関心があります。趣味はフィルム写真です。社会人1日目頑張ります!o(^_^)o(金成めい)



コレクション展 ケンビコレクションで自然観察

2022年8月3日(水)～9月11日(日)

夏休みシーズンに合わせて、当館コレクションから昆虫や植物をモチーフにした作品を選んでご紹介いたします。作家たちが自然をどのように捉え、作品の中でどう表現しているのか。多様な表現を通して、自然と人間の関係を改めて感じていただければと思います。

会期中のイベントとして、8月20日(土)14:00より、当館講堂にて、面河山岳博物館(久万高原町)の矢野真志学芸員を講師にお迎えして、レクチャー「ケンビコレクションで自然観察」を開催します。昆虫の専門家の視点から作品の魅力を語っていただきます。オンラインでの参加も可能ですので、電話、FAX、HPからお申し込みください! (長井 健)

杉浦非水「非水の図案」1914(大正5)年



ティラノサウルス～進化の謎にせまる～

7月16日(土)～9月4日(日)

大型肉食恐竜の中でも特に知名度の高いティラノサウルスは、後期白亜紀に北アメリカ大陸に生息していました。本展では迫力ある全身復元骨格や最新の研究成果を通してその魅力を紹介します。合わせて愛媛大学研究チームが県内で初めて発掘した首長竜の歯とみられる化石を、期間限定(8/11～28)でご紹介する他、愛媛県総合科学博物館の協力で県内産出の化石も展示します。(杉山 はるか)



「ティラノサウルス全身復元骨格」株式会社ハレオサイエンス蔵



「首長竜の歯の化石」愛媛大学蔵

topics

新しいもの特集

ケンビカメラ、はじめました!

ウルトラテクノロジスト集団チームラボによる非接触で自撮り撮影が可能な「チームラボカメラ」が、6月に当館エントランスホールにやってきました! 県美の作品がユニークなフォトフレームとなり、作品の中の人物と共演?したり、同じ格好をすることもできます。コレクションを「体験」することで、作品の新しい魅力や見方を発見していただければ嬉しいです。

こちら、来年の3月までの期間限定のブースです。コレクション展の内容に合わせてフレームも入れ替わりますので、お楽しみに! (喜安 嶺)



※マスクを外しての撮影可ですが、その間は会話NGをお願いしております。

県美アートカード100&バスツアープログラム 「美術館に行こう!」

2022年9月1日(木)～2023年3月17日(金)

美術館では学校で鑑賞の授業に活用してもらうために、この度、所蔵作品100点を使ってアートカードを作成しました。アートカードとは、楽しく遊びながら鑑賞力を身に付けることのできる学習教材です。カードを使ったゲームを通して、作品の細部を観察する力や感じたことを言葉で表現する力を育成します。この県美アートカード100は美術館より学校に、無料で貸出を行っています。

さらに今年度は、東予・中予・南予、各地域の小学校・特別支援学校より抽選で各3校に、県美アートカード100を用いた事前出前授業と県美コレクション展見学がセットになった、バスツアープログラムを実施します。子どもたちの楽しい美術館体験を、愛媛県美術館がサポートします。(鈴木 有紀)



施設等の改修やデジタル化について

当館では、令和2年度より順次新型コロナウイルス関連対策として、様々な改修やデジタル化を行っています。既にご紹介した壁面塗装や木質化に加え、昨年度には抗菌加工のカーペットの施工(講堂・赤ちゃんルーム・南館)も完了し、デジタルサイネージによる館内のイベント案内も開始しています。また、本館のエントランス・各展示室・講堂・研修室にFreeWi-Fiを設置しました。「Ehimeart98」のパスワードでどなたも自由にご利用いただけます。展示室内でこれまでは通信機器の使用は禁止でしたが、今後は作品鑑賞の際の調べものなどに活用いただけます。通話や撮影は引き続きご遠慮ください。さらに、抗菌加工の作品解説カードも作成し、該当作品の展示期間に配架しています。作品鑑賞にお役立てください。(杉山 はるか)



ご利用案内

- 開館時間 9:40～18:00(入室は17:30まで)
※企画展及び貸展については、入室時間が異なることがあります。
- 休館日 月曜日
(祝日、振替休日及び第1月曜日に当たる場合は開館し、その翌日が休館日。年末年始は12/29～1/3が休館日)

編集後記

カンフォロのバックナンバーをみると、美術館の様子がいろいろな角度から見えてきます。他で拾えない情報が載っていることもしばしば。私が美術館に来た2004(平成16)年発行分(No.24)によると、この年の11月27日から開館記念日を祝い始めたことが分かりました。今年の開館記念事業はまた当館の誕生日・11月27日に実施します。(杉山 はるか)

であつつながるひろがる—アートの宝宝箱—

愛媛県美術館
https://www.ehime-art.jp/
〒790-0007 愛媛県松山市堀之内
tel.089-932-0010 fax.089-932-0511



カンフォロ Canforo No. 64



愛媛県美術館二コースNo.64 2022
発行日=令和4年7月10日
編集・発行=愛媛県美術館
※表記のないものはすべて当館所蔵作品



東立美術部時代の
初代編集長をモチーフにした
マスコットキャラクター
「キヨ」(左)と「ダイ」(右)

企画展



空海ゆかりの名宝と運慶・快慶 金剛峯寺展 National Treasures Koyasan Kongobuji: Kukai/Unkei and Kaikei 国宝 高野山

弘法大師空海誕生一二五〇年記念 あいテレビ開局二〇周年記念

2022年10月1日(土)～11月20日(日)
本館 1F 企画展示室・本館 2F 常設展示室1

来る2023(令和5)年は、弘法大師空海(774～835)の誕生1250年という大きな節目にあたります。これを記念し、空海が開いた高野山金剛峯寺の名宝約40件を選び、一堂に公開します。

唐へ渡り、密教の正統を受け継いだ空海は、816(弘仁7)年、密教の奥義を究める修行の道場として、嵯峨天皇より勅許を得て高野山を開きました。835(承和2)年奥之院において入定し、今なおこの地で衆生の救済のために祈りを捧げていると信じられています。開創以来1200年を超える歴史の中で、真言密教の聖地として、さらには空海を慕う人々の憧れの地として、時代や宗派を超えた信仰を集めてきました。皇族や貴族、有力大名ら時の権力者が、当時の最高の技術をもって制作させた仏像、仏画、工芸品などを寄進し、その結果、わが国でも最大規模にして最高水準の仏教美術の宝庫が形成され、数々のすぐれた文化財が今日まで大切に守り伝えられてきたと言えます。

展覧会では、空海24歳の力強い自筆で名高い国宝(瞿瞿指帰)(上巻のみ展示)、天才仏師・運慶の壮年期の傑作である国宝(八大童子立像)(8軀のうち2軀を展示)をはじめ、高野山を代表する名宝が勢ぞろいします。本展は、巡回ではなく当館だけの独自開催となりますので、愛媛ならではの独自企画として、高野山と伊予の関係を示す貴重な資料もご紹介いたします。空海のご精神と壮大な高野山の歴史に育まれたわが国の文化の精髓に触れていただければ幸いです。(長井 健)

国宝 運慶作《八大童子立像》のうち 恵光童子像
鎌倉時代 金剛峯寺蔵

企画展

2022年12月1日(木)～2023年1月29日(日)
本館 2F 常設展示室1・2

中川八郎没後100年記念

今年には明治最後の年である1912年から110年後にあたります。本展では、西洋諸国との関わりから、日本全体が大きく変わっていくこの「明治」という時代に描かれた水彩画や油彩画を紹介します。

まず、特筆すべきは、200点以上におよぶ出品作が、すべてひとりの美術コレクターにより一代で形成された点です。近年評価の高まり続けている吉田博や明治洋画界の元老と呼ばれた小山正太郎、そして日本の画家に大きな影響を与えたジョン・ヴァーレー・ジュニアやチャールズ・ワグマンらの滞日作品まで、海外での調査を経て収集された質量共に貴重なコレクションからは、大変な情熱が伝わってきます。

そして、これらの中には、愛媛県内子町出身の洋画家、中川八郎(1877(明治10)～1922(大正11))の初期代表作である《雪林帰牧》をはじめとした13点の作品が含まれています。44歳という若さでこの世を去った翌年に自宅が類焼にあったことで、確認できる作品は、その活躍に比して限られています。今年には中川の没後100年にもあたりますので、本展にあわせて当館の中川作品もコレクション展にて全てご紹介し、改めてその魅力をお伝えします。

最後となりますが、本展には、奇抜な構図や意表を突く作品はありません。ただ、そこには、時代という逆らえないうねりの中で、そこに生きる人々やその暮らしに美しさを見出し、また、新しい西洋の技法を身に付けるべく真摯にまなび描いた作家たちの強く、あたたかな眼差しがあります。それらは、コロナ禍において、私たちが改めて自身の暮らしを見つめ直したことに重なるものもあるのではないのでしょうか。110年前の日本の風景を、親しみをもって、旅する様に楽しんでいただければ幸いです。(喜安 嶺)



中川八郎《雪林帰牧》1897(明治30)年 京都国立近代美術館蔵

明治を絵画で旅する(仮)
発見された日本の風景

News

第37回 愛媛出版文化賞受賞



2020年に開催した展覧会「真鍋博2020」の図録兼一般書籍としてパイ インターナショナルから刊行された「真鍋博の世界」が、2021年度第37回愛媛出版文化賞の奨励賞(美術部門)に選定されました。当館が執筆、監修、編集に携わった、当館の真鍋コレクションを紹介する書籍が評価されたことをうれしく思います。

つぶやき



愛媛県美術館開館の理念は「みる・つくる・まなぶ」を楽しんでいただく参加創造型美術館。4月の着任以降、多くの「みる」や「つくる」「まなぶ」機会を得ていることを糧に、来年の開館25周年に向け、より多くの方に美術館を楽しんでいただけるよう努めてまいります。(武智 公博)